

平成30年度 第6回帯広市社会教育委員会議 議事要旨

- 1 日 時 平成31年2月20日(水) 18:00~18:41
- 2 会 場 とかちプラザ 会議室304
- 3 出席委員 阿部 好恵、平田 昌弘、矢野 充、鳴海 亮、松田 信幸、池田 健一、松本 健春、高倉 美恵子、鈴木 慎一、久保田 博己、藤崎 博人、江藤 敏雄、金谷 洋子、村上 博子
(以上14名 敬称略)
- 4 事務局 生涯学習部長 草森 紳治、スポーツ振興室長 葛西 克也、図書館長 前原 匡宏、スポーツ振興室主幹 河瀬 祐二、生涯学習課長 中小原 治子、文化課長 渡邊 誠克、百年記念館長 山原 敏朗、動物園長 柚原 和敏、生涯学習課生涯学習推進係長 島田 猛、生涯学習課主任補 米林 史哲、生涯学習課主任補 岩崎 真実
(以上11名)

5 会議次第

- (1) 開会
- (2) 帯広市教育委員会生涯学習部長 挨拶
- (3) 帯広市社会教育委員長 挨拶
- (4) 議事
- (5) 閉会

6 議事要旨

- (1) 平成31年度生涯学習部予算について
事務局より説明。

○ 委員

こうして見ると、生涯学習にかける予算が限られている。改めて生涯学習関係事業を運営していく厳しさを感じている。文化・芸術・学術活動にもっと予算がつけば良いと思う。

- (2) その他

○ 委員

今年度、帯広市PTA連合会(以下、市P連)が創立70周年を迎えた。そこで市P連では、80周年までの10年間について“OB I-P STYLE (オビピースタイル) ※”を合言葉に活動をすすめていくこととしている。その中で、子どもだけではなく、大人も勉強することの大切さを柱に掲げている。まずは大人が勉強し子どもに還元していく必要がある。これからも、市P連をはじめとする地域の活動に、社会教育委員会議などで学んだことを伝えていけたら良いと思っている。

※ OBI-P STYLE(オビピースタイル)

市P連が創立80周年までの10年間における、市P連の活動の方向性を示すもの。

OBI-Pは、O=大人も、B=勉強、I=一緒にやろうよ、P=PTA の頭文字をとっている。

柱に「家庭、学校、地域への還元」、「未来への学びを家庭や学校教育へ反映」、「組織の効率化と負荷の軽減」を掲げている。

○ 委員

社会教育とコミュニティ・スクールの関係について、研修など様々な場面で話題となっている。帯広市におけるコミュニティ・スクール導入に向けた動きはどうなっているのか。

○ スポーツ振興室長

現在、大空地区の小・中一貫校の計画を進めている。それに併せてコミュニティ・スクールの導入も進めていくこととしている。今後、大空地区だけではなく、状況を見ながら他の地域にも広げ、全市的に取り組んでいく予定である。

○ 委員

提言書作成のグループワークの中でも意見が挙がっていたように、地域人材を生かし小学校、中学校、高校の教育をさらに充実させていけたら良い。

今後、コミュニティ・スクールに関する動きがあれば、都度、帯広市社会教育委員会議の中で報告してほしい。

以上